

聖 霊

第3回 メシアの生涯に見る聖霊の働き

□アウトライン

1. メシアを迎える人々を整えた
2. メシアを処女から生まれさせ、しかも罪の性質を持たないようにした
3. メシアの公生涯を導いた（油注ぎ・メシアの上に臨む・証印・満たし・導き）
4. メシアの聖霊に対する応答（力を帯びる・喜び）
5. メシアの死との関連
6. メシアの復活との関連

1. メシアを迎える人々を整えた

(1) 祭司ザカリヤ・妻エリサベツ・子のヨハネ（ルカ 1：5～80）

3人とも、「**聖霊に満たされ**」（ルカ 1：15、41、67）

- ザカリヤはレビ族アロンの家系（＝祭司の家系）
- 妻エリサベツもアロンの家系に属する（ルカ 1：5）が、ユダ族のマリアとは親類（ルカ 1：36、年の差はあるが、いどこであろう）
- 子のヨハネは、洗礼者ヨハネとなる。紀元 26 年春、イスラエルの民の前に預言者として公に現れた（ルカ 1：80、20：6）。同年秋、イエスに洗礼を受けたときの出来事に基づき、イエスをメシアであると証言した。ヨハネは旧約時代の最後の預言者（マタイ 11：13）

(2) シメオン（ルカ 2：25～35）・・・少数の信仰者（レムナント）のひとり

25 節 **聖霊が彼の上におられた。**

26 節 **そして、主のキリストを見るまでは決して死を見ることはない、聖霊によって告げられていた。**

- シメオンが聖霊に導かれてエルサレムの神殿に入ると、ちょうどヨセフとマリアが生後 40 日のイエスを伴って神殿に来た。シメオンは、幼子を腕に抱き、神をほめたたえた（ルカ 25：27）

2. メシアを処女から生まれさせ、しかも罪の性質を持たないようにした

ガリラヤのナザレという町の一人の処女マリアに天使が現れ、メシアの誕生を告げた

ルカ 1:26~33 さて、その六か月目（エリサベツが身ごもってから）に、御使いガブリエルが神から遣わされて、ガリラヤのナザレという町の一人の処女のところに来た。この処女は、ダビデの家系のヨセフという人のいいなずけで、名をマリアといった。御使いは入って来ると、マリアに言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます。」しかし、マリアはこのことばにひどく戸惑って、これはいったい何のあいさつかと考え込んだ。すると、御使いは彼女に言った。「恐れることはありません、マリア。あなたは神から恵みを受けたのです。見なさい。あなたは身ごもって、男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。その子は大いなる者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また神である主は、彼にその父ダビデの王位をお与えになります。彼はとこしえにヤコブの家を治め、その支配に終わりはありません。」

マリアの質問と御使いの答え

ルカ 1:34~38 マリアは御使いに言った。「どうしてそのようなことが起こるのでしょうか。私は男の人を知りませんのに。」御使いは彼女に答えた。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれます。見なさい。あなたの親類のエリサベツ、あの人もあの年になって男の子を宿しています。不妊と言われていた人なのに、今はもう六か月です。神にとって不可能なことは何もありません。」マリアは言った。「ご覧ください。私は主のはしめです。どうぞ、あなたのおことばどおり、この身になりますように。」すると、御使いは彼女から去って行った。

- 聖なる者・・・聖いとは、罪のないこと。メシアは罪の性質を持たない。

- メシアが処女から生まれるというのは、メシア預言の成就である

イザヤ 7:14 それゆえ、主は自ら、あなたがたに一つのしるしを与えられる。

見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶ。

➤ インマヌエル・・・「神は私たちとともにおられる」という意味

➤ その名・・・メシアはその働きと関連する多くの名をもっている。インマヌエルという名は、神が人々とともに新しい地の上に住まわれるという将来の出来事と関係するメシアの名である。

黙 21:3b 見よ、神の幕屋が人々とともにある。神は人々とともに住み、人々は神の民となる。神ご自身が彼らの神として、ともにおられる。

3. メシアの公生涯を導いた (油注ぎ・メシアの上にとどまる・証印・満たし・導き)

(1) 公生涯開始のときに (洗礼者ヨハネから洗礼を受けたとき) 3つの働き

イエスが洗礼を受けたとき、聖霊がイエスの上に降った (油注ぎ)

ルカ 3:21~23a さて、民がみな (ヨハネから) バプテスマを受けていたころ、イエスもバプテスマを受けられた。そして祈っておられると、天が開け、聖霊が鳩のような形をして、イエスの上に降って来られた。すると、天から声がした。あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ。」イエスは、働きを始められたとき、およそ 30 歳で、ヨセフの子と考えられていた。

ヨハネの証言

ヨハネ 1:29~34 その翌日 (ヨハネのもとにユダヤ議会が調査団を派遣してヨハネから聴き取りをした日の翌日)、ヨハネは自分の方にイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の子羊。『私の後に一人の人が来られます。その方は私にまさる方です。私より先におられたからです』と私が言ったのは、この方のことです。私自身もこの方を知りませんでした。しかし、私が来て水でバプテスマを授けているのは、この方がイスラエルに明らかにされるためです。」そして、ヨハネはこのように証しした。「御霊が鳩のように天から降って、この方の上にとどまるのを私は見ました。私自身もこの方を知りませんでした。しかし、水でバプテスマを授けるようにと私を遣わした方が、私に言われました。『御霊が、ある人の上に降って、その上にとどまるのをあなたが見たら、その人こそ、聖霊によってバプテスマを授ける者である。』私はそれを見ました。それで、この方が神の子であると証しをしているのです。」

- 神の子羊・・・出 12 章の過越の羊、イザヤ 53 章メシア預言の羊

① 油注ぎ (聖霊がメシアの上に降る)

イザヤ 61:1 神である主の霊がわたしの上にある。貧しい人に良い知らせを伝えるため、心の傷ついた者を癒やすため、主はわたしに油を注ぎ、わたしを遣わされた。

使徒 4:27 あなたが油を注がれた、あなたの聖なるしもペイエス

使徒 10:38 神はこのイエスに聖霊と力によって油を注がれました。

② メシアの上にとどまる

イザヤ 11:1～2a エッサイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ。その上に主の霊がとどまる。

イザヤ 42:1 「見よ。わたしが支えるわたしのしもべ、わたしの心が喜ぶ、わたしの選んだ者。わたしは彼の上にわたしの霊を授け、彼は国々にさばきを行う。

イザヤ 61:1 神である主の霊がわたしの上にある。 貧しい人に良い知らせを伝えるため、心の傷ついた者を癒やすため、主はわたしに油を注ぎ、わたしを遣わされた。

③ 証印

ヨハネ 6:27 なくなってしまう食べ物のためではなく、いつまでもなくなるらない、永遠のいのちに至る食べ物のために働きなさい。それは、人の子が与える食べ物です。この人の子に、神である父が証印を押されたのです。

- 神である父が証印を押す・・・父なる神のものであるという証明。証印を押すという働きは直接的には聖霊の働きであるが、ここでは「父が証印を押した」⇒証印の働きの源は父なる神である。

(2) 公生涯の中で： 2つの働き = 満たし・導き

ルカ 4:1～2a さて、イエスは聖霊に満ちてヨルダンから帰られた。そして御霊によって荒野に導かれ、40日間、悪魔の試みを受けられた。

① 満たし・・・「聖霊に満ちて」＝「神が御霊をお与えになる」

ヨハネ 3:34 神が遣わした方は、神のことばを語られる。神が御霊を限りなくお与えになるからである。

- 限りなく・・・無限に満たされるのは、メシアだけである

② 導き・・・「御霊によって〇〇に導かれ」＝「〇〇に追いやる」

マタイ 4:1 それからイエスは、悪魔の試みを受けるために、御霊に導かれて荒野に上って行かれた。

マルコ 1:12 それからすぐに、御霊はイエスを荒野に追いやられた。

4. メシアの聖霊に対する応答（力を帯びる・喜び）

(1) 力を帯びる

悪魔の試みを受けたあと、ガリラヤにて活動。メシアとしての権威を現わした

ルカ 4:14~15 イエスは御霊の力を帯びてガリラヤに帰られた。すると、その評判が周辺一帯に広まった。イエスは彼らの会堂で教え、すべての人に称賛された。

口をきけなくする悪霊に憑かれた人から悪霊を追い出し、その人を癒やしたとき

マタイ 12:28 わたしが神の御霊によって悪霊どもを追い出している

(2) 喜び

七十人（または72人）の弟子たちが派遣から帰ってきたとき

ルカ 10:21 ちょうどそのとき、イエスは聖霊によって喜びにあふれて言われた。

「天地の主であられる父よ、あなたをほめたたえます。あなたはこれらのことを、知恵ある者や賢い者には隠して、幼子たちに現してくださいました。そうです、父よ、これはみこころにかなったことでした。

5. メシアの死との関連

ヘブル 9:14 キリストが傷のないご自分を、とこしえの御霊によって神にお捧げになったその血は、どれだけ私たちの良心をきよめて死んだ行いから離れさせ、生ける神に仕える者にすることでしょうか。

6. メシアの復活との関連・・・聖書は、三位一体の神のすべての位格が復活に関係していることを示す

(1) 父なる神がメシアをよみがえらせた

使徒 2:22~24 イスラエルの皆さん、これらのことばを聞いてください。神はナザレ人イエスによって、あなたがたの間で力あるわざと不思議としるしを行い、それによって、あなたがたにこの方を証しされました。それは、あなたがた自身がご承知のことです。神が定めた計画と神の予知によって引き渡されたこのイエスを、あなたがたは律法を持たない人々の手によって十字架につけて殺したのです。しかし神は、イエスを死の苦しみから解き放って、よみがえらせました。この方が死につながれていることなど、あり得なかったからです。

エペソ 1:17~21 どうか、私たちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。また、

あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しにより与えられる望みがどのようなものか、聖徒たちが受け継ぐものがどれほど栄光に富んだものか、また神の大能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力が、どれほど偉大なものであるかを、知ることができますように。

この大能の力を神はキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、天上でご自分の右の座に着かせて、すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世だけでなく、次に来る世においても、となえられるすべての名の上に置かれました。

(2) イエスはご自身でよみがえった・・・ヨハ 10：17～18、11：25

(3) 聖霊がメシアの復活に関与した

ロマ 1：4 聖なる霊によれば、死者の中からの復活により、力ある神の子として公に示された方、私たちの主イエス・キリストです。

ロマ 8：11 イエスをよみがえらせた方の御霊

- イエスをよみがえらせたのは父なる神、その働きを直接したのは聖霊

十字架上での霊的復活にも関与した

I ペテ 3：18 キリストも一度、罪のために苦しみを受けられました。正しい方が正しくない者たちの身代わりになられたのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、あなたがたを神に導くためでした。

- 罪のために苦しみを受けた・・・十字架刑のこと
- 霊においては生かされて・・・イエスの人間としての霊は、生かされた＝【一度死んで、そのあと再び生きるものとされた】⇒十字架の上で霊的に一度死んで、また生かされたとは、何か？ 十字架刑 6 時間のうち、後半の 3 時間の霊的死と霊的復活の経験を指す。イエスは、十字架に午前 9 時につけられたが、12 時から午後 3 時頃までは父なる神との関係が遮断されて「神からの分離」、すなわち霊的死を経験した。そして午後 3 時頃、霊的復活をして、最後のことばは、「父よ、わたしの霊をあなたの御手にゆだねます」との祈り。十字架上で、【霊的死⇒霊的復活】
- メシアは、生まれたときから罪なきお方であり、霊的死を知らなかったが、【霊的死⇒霊的復活⇒肉体の死⇒体の復活】という順序を経験してくださり、私たちと同じになってくださった。私たちが神に導くため。